

序文

政局に無関係の著作は初めての試みです。いわば79才、新人作家の処女作です。ジャーナリスト出身らしく現場重視のノンフィクションを貫きました。「手前みそ」で誠に恐縮ですが、わずかばかり残っていたエネルギーを使い果たした力作と自負しています。自分勝手な「異色の作」という思い込みも、あなたの寛容の精神によってお許し賜りたいと存じます。

従来 of 著作は、NHK政治記者並びに政治家としての体験を通じた政局ないしは専門分野の「外交・安保」が中心でした。誰も知らない内外の特ダネ・エピソードが盛り沢山でしたし、分析にも半世紀の年季が入っていました。ところが、今回の著書は、基礎知識のないアマチュアが1年ほど齧っただけの、内外の政治とは関わりのない分野の著作です。その意味では、知らぬが仏の類ですから、問題は全て西安・敦煌・蘭州の現場で徹底して検証しました。

従って、専門の研究者から事実関係の誤認について指摘されたら、直ちに誤りを正します。そして、勉強および調査の至らなかつた点を素直に認めます。ただ、ズブの

シロウトではありませんが、専門家から見解の相違を問われても一步も譲るつもりはありません。自ら感じ取った思いと判断を「是」とします。

そもそも無謀な試みにはまったきっかけは、生前、ご指導をいただいた比叡山延暦寺大阿闍梨・酒井雄哉師の「生の講話」を後世に残したいという単純な願いにありました。

実は、現職の国会議員の折、酒井師には豊川と名古屋にお運び願って2度講話をしていただきました。滅多なことではお山を下らない行者（阿闍梨）が、2000人の聴衆を前にボソボソと語られた1時間の講話は、ことばに尽くせない、鬼気迫る、貴重な人生訓でした。師からも講話の記録を多くの人に伝える努力をするように言われておりました。

公職を退いてから書き始めた政治がらみの一連の著作が、4冊『諫める 亡国の政治に警鐘』（早稲田出版）、『北京大学講義録 日中反目の連鎖を断とう』（NHK出版）、『日中秘話 融氷の旅』（青灯社）、『やぶにらみの正論／新聞俳句——入選のコツ』（時評社）を重ねてひとまず卒業しましたので、酒井師との約束を果たさせてい

ただくにはどうしたものか考えました。

そこで、酒井雄哉阿闍梨が「師」と仰いでいた円仁（圓仁、慈覚大師）との関わりからアプローチすることとしました。最後の遣唐使・円仁が、9年半に及んだ唐との往復を克明に記した記録『入唐求法巡礼行記』が存在することを知りました。紀貫之の『土佐日記』を遡ること1000年、日本最古の本格的な日記です。これを読んでみて、酒井行者が円仁の跡を追って五台山から長安（西安）をくまなく訪れた理由について得心しました。だったら、私は故・酒井雄哉師の足跡を尋ねてみようと思いいちちました。

長安の都に立つて、円仁著『入唐求法巡礼行記』を頼りにお上りさんを実行しました。ところが、これが面白い。酒井師が、単なる旅行者と異なる特別の目的意識を持たせてくれましたので、探し尋ねる楽しみがあります。なぜ尋ね当てられなかったかがわかるだけでも現地を訪れた意味は十分あります。

その上、『入唐求法巡礼行記』の中に西遊記の「孫悟空」と同じ「悟空」の存在を見つけて、孫悟空とないか関連があるのではないかと思うに至りました。孫悟空に憧れたあの頃の想いを甦らせてくれるかもしれない。興味がわかない道理がありません。

三蔵法師には西安でたつぷり会うことが出来ましたが、孫悟空の手がかりはさっぱりつかめず、行き詰まりました。

あとは三蔵法師玄奘の研究に優れた実績のある敦煌に足を延ばして、孫悟空を探してみれば手立てはありません。

タクラマカン砂漠東端を彷徨い、やっと榆林窟にたどり着いて、見事な「玄奘取经图」の壁画と対面しました。三蔵法師の供をする孫悟空に会えた感動は格別でした。

帰途、チンギス・ハーンと面会するため蘭州に立ち寄りました。

チンギス・ハーンが西夏（タングート族）討伐戦に本陣を敷いた六盘山は甘粛省から隣の寧夏回族自治区に連なる山脈ですが、蘭州の郊外、興隆山にも大部隊を駐屯させました。ここに、モンゴル国内では見られないチンギスゆかりの遺跡があります。

横綱・白鵬翔と語り合う仲になって以来、「横綱はチンギス・ハーンの生まれ変わり！」と思っている私にとっては、千載一遇のチャンスです。予定通りチンギス・ハーンにも面会して、西安・敦煌・蘭州の旅は子ども頃の夢を全て叶えてくれました。道中撮った800枚余の写真は、1次選考、2次選考、3次選考を経て26枚、本書

に掲載いたしました。

芋づる式に次から次へと果実が連なった「西域ひとり旅」は、快八十才了（間もなく八十才）の私にとって、一瞬の青春を取り戻させてくれました。そして同時にかけがえない冥途の土産にもなりました。

旅しながら、お世話になった数多の中国の方々に言葉では尽くせない誠の礼を捧げます。

11年前、酒井雄哉師の講話を収めた『成熟』を出版してくださった時評社から、本書が上梓されたのも深い縁とありがたく存じています。

毎回、出版のために骨を折ってくださった経営本部長・吉原比呂志取締役はじめ、編集・制作を担当してくださった田中博英編集長、編集部・小島雄輔さん、林美里さんの若い篤実な意欲が素晴らしい著書を世に送り出す底力になってくれました。

なによりもご購入いただいた読者のあなたに感謝の気持ちをお伝え申し上げます。誠にありがとうございました。

2017年5月吉日

横浜・青葉区の自宅作業部屋にて

目次

序文…………… 3

第1章 生き仏——生の講話なま
無の境地に達した『極限の行』…………… 11

第2章 孫悟空クって誰だ！
軍事戦略に抽ぬかれた三蔵法師の地誌…………… 91

第3章 白鵬翔とチンギス・ハーン
「宿命ある人が横綱になる」…………… 179